

取扱説明書 電動アシスト自転車

適用モデル: LIGHT-P4

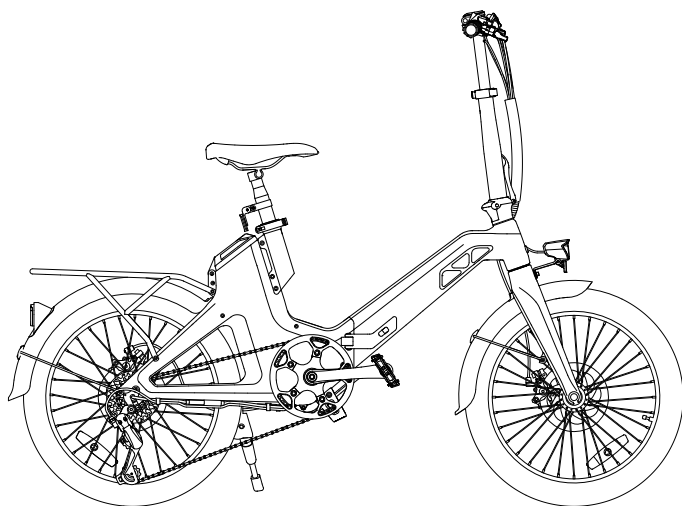
保証書別添付

このたびは、PXID製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(P2～P14ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

はじめに

- この自転車は、一般乗車用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないでください。
- また、日本国内以外の交通法規には適合していませんので、日本国内以外でご使用にならないでください。
- 必ず、販売店で防犯登録を行ってください(法令で義務付けられています)。
- 製品をほかの人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡してください。
- 本書のイラストはイメージ図を使用していますので、一部実車と異なる場合があります。



もくじ

安全上のご注意	02
使用説明書	15
点検	21

安全上のご注意 (必ずお守りください)

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

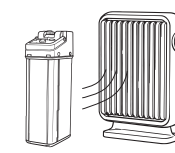
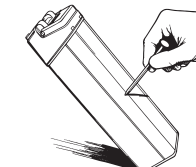
⚠ 危険	「死亡や重傷を負うおそれ大きい内容」です。
⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています(次は図記号の例です)。

⊘ してはいけない内容です。	! 実行しなければならない内容です。	⚠ 気を付けていただく内容です。
-----------------------	---------------------------	-------------------------

⚠ 危険

バッテリーについて

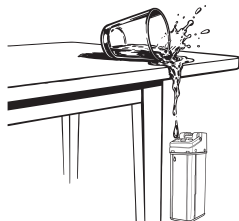
- | | |
|--|---|
| <p>⊘ 禁止</p> <p>■ (+)と(-)を金属などで接触させない
(発熱、発火、破裂の原因)
ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しないでください。</p> <p>■ 火への投入、加熱をしない</p>  <p>(発熱、発火、破裂の原因)</p> <p>■ 火のそばなど高温の場所で充電・使用・放置しない</p>  <p>(発熱、発火、破裂の原因)</p> | <p>⊘ 禁止</p> <p>■ 落下させない
(発熱、発火、破裂の原因)</p> <p>■ 当社電動アシスト自転車専用の充電式バッテリーです。この機器と専用アダプターでの接続以外は使用しない</p> <p>■ 専用の充電器以外は使用しない
(発熱、発火、破裂の原因)</p> <p>■ クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない</p>  <p>(発熱、発火、破裂の原因)</p> <p>■ 再生・リサイクルバッテリーは使用しない
(発熱、発火、破裂の原因)</p> |
|--|---|

⚠ 警告

バッテリーについて



- 水を入れたり、水中に投下したりしない



(端子部から水が入ると発熱、発火、破裂の原因)
バッテリー内部に明らかに水が浸入した場合は、
使用を停止し、販売店で点検を受けてください。

- 傷ついたまま使用しない

(ゲースなど、破損したまま使用すると液漏れ
のおそれがあり、目に入った場合失明するおそ
れ。また、水の浸入により、発煙・発火のおそれ)

- 大雨などで自転車本体(バッテリー部)が
水につかった場合、使用しない

(不意にアシストが停止する場合があります、バラン
スを崩し、転倒によるけがのおそれ)
本自転車は生活防水性能を備えていますが、大
雨などによりバッテリー内部に水が入った場合
は使用を停止し、販売店で点検を受けてくださ
い。

充電器について



- 当社電動アシスト自転車バッテリーの充
電以外の使用は絶対にしない

(バッテリーの液漏れ、発熱、破裂によるけがの
原因)

- 電源コードを充電器本体に巻きつけて保
管しない

(電源コードやプラグが断線し、傷んだまま使
用すると、感電・故障・火災の原因)

充電器について



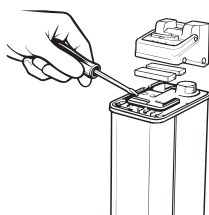
- 充電中はカバーをしたり、上に物を置い
たりない

(内部が発熱し、火災のおそれ)

- 充電中は引火のおそれがあるものを近づ
けない

(スパークし、火災や爆発の原因)

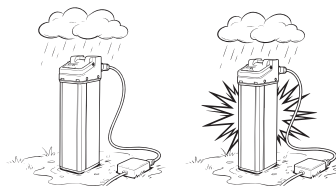
- 分解、改造は絶対にしない



(充電時、バッテリーの液漏れ、発熱による火
災のおそれ)

- 以下のようなことはしない

- ・ 衝撃を与えること
- ・ 落下
- ・ 水ぬれ
- ・ 高湿度な場所(浴室・洗面所や水がかか
る場所)での使用



(発熱、発火、感電のおそれ)
水にぬれた場合には、内部基板上に水が浸入し
ていることがありますので、使用しないでくだ
さい。

⚠ 警告

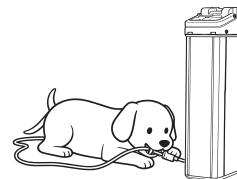
充電器について



- 充電端子を金属でショートさせたり、ボタ
ン・コイン電池を接触させない

(発熱、発火、感電のおそれ)

- 幼児やペットが触れる所に放置しない



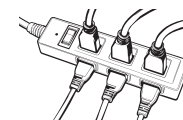
(幼児やペットがコードを傷め、感電・故障・火
災の原因)

- 電源コードや電源プラグ・ケースを破損す
るようなことはしない(傷つける、加工す
る、熱器具に近づける、無理に曲げる、ね
じる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるな
ど)



(傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原
因)
電源コードなど単体での修理・交換はできま
せん。電源コードなどが傷んだ場合、販売店
にご相談ください。

- コンセントや配線器具の定格を超える使
いかたや、家庭用の交流100 V以外での
使用はしない



(たこ足配線などで定格を超えると、発熱によ
る火災の原因)



- ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしな
い



(感電のおそれ)

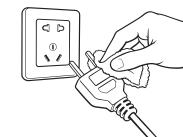


- 電源プラグは根元まで確実に差し込む
必ず守る



(接触不良による感電や火災の原因)

- 充電端子や電源プラグのほりこりなどは定
期的に取る



(ほりこりがたまると、湿気などで絶縁不良とな
り、火災の原因)
電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてくださ
い。

- 充電中に次の異常を感じたら充電を中止
する(異音・異臭・煙の発生など)

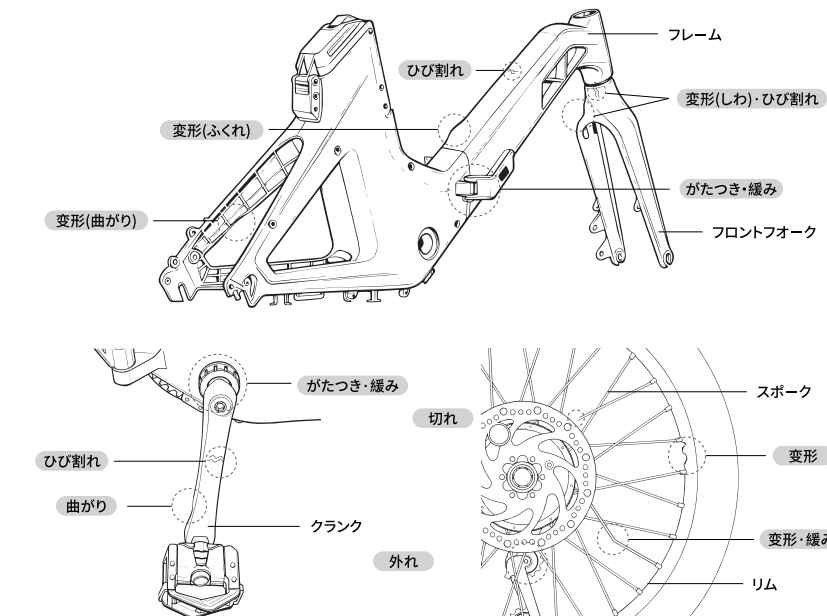
(火災や爆発の原因)
充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り
外してください。

⚠ 警告

自転車本体について



■ 各部にがたつきや緩みおよび、変形・ひび割れなどの異常があるときは乗らない



(折れや固定の緩みにより、転倒や衝突によるけがのおそれ)

ひび割れや変形などの異常を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。
⇒フロントフォークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わったあとは、フロントフォークに変形やひび割れなどの異常が無い点検してください。
⇒スポークが1本でも切れたまま使用を続けると、ほかのスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れ・変形・緩みのあるスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。

⇒ハンドルやサドルを締め付けもがたつき・緩み・ずれがあるとき、またハンドルの回転が重い・引っ掛かりがあるときは、すぐに乗るのを止め、販売店で点検してください。

■ 調整後の締め付け・固定を確認せずに乗らない

・車輪/サドル/リアキャリア/ハンドル/フロントフォーク/クランク など

(転倒や部品や物が落下し、けがのおそれ)

⚠ 警告

自転車本体について



■ 次の様ときは外観上異常が無くても販売店で点検を受ける

- ・車輪が変形するような衝突や段差の乗り上げ・落下をしたとき
- ・ペダルやクランクに強い衝撃が加わるような衝突や転倒をしたとき

(ブレーキの動作不良、フレーム・フロントフォークの折損、駆動ユニットの異常動作により転倒し、けがのおそれ)

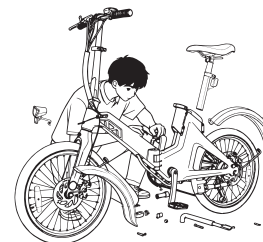
■ 定期点検の時期以外でも、激しい使用後は常に点検をする(受ける)

(異常や破損によるけがのおそれ)

自転車本体について



■ 改造や分解はしない



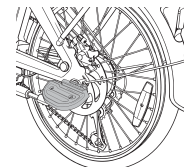
(部品の破損や、ブレーキが利かなくなって転倒や衝突によるけがのおそれ)

■ 回転部(車輪・チェーンなど)に手や足を近づけない

(車輪やチェーンに巻き込まれ、けがのおそれ)
⇒幼児や児童も近づけないようにご注意ください。

■ ハブステップなどの突出物を装着しない

(歩行者などに危害を及ぼすおそれ)



ブレーキについて



■ ブレーキ(前・後)の作動を確認せずに乗らない※

■ ブレーキレバーの遊びが大きいまや、小さいままで走行しない※

■ タイヤやブレーキから異音がある場合は使用しない※

※(ブレーキが利かなくなったり、利き過ぎたりすることがあり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

⇒ブレーキが利かないときやブレーキレバーの遊びが不適切なときは、すぐに販売店で点検を受けてください。

■ ローラーブレーキグリスの補給には、ローラーブレーキ専用グリス以外は使用しない

(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)

■ 雨天時や下り坂ではスピードを出さない

(制動距離が長くなったり、スリップしやすくなったりするため、衝突や転倒によるけがのおそれ)

■ フロントブレーキだけを強くかけない

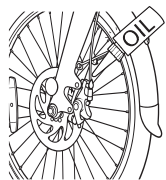
(車輪がロックし、自転車前方に転倒し、けがのおそれ)

⚠ 警告

バッテリーについて



- 注油禁止場所(リムやブレーキシューのゴム部など)に注油しない

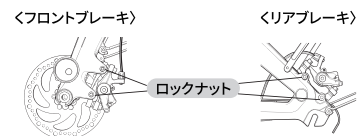


(ブレーキが利かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれ)

ブレーキについて



- ブレーキ前・後のロックナットは確実に締め付ける

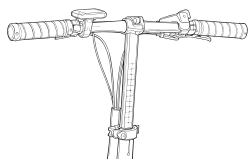


(ブレーキの調整が狂い、転倒や衝突によるけがのおそれ)

ハンドルについて



- ハンドルステムのハイトストッパーを外して、ハンドルステムを一番下まで下げない



(固定が不完全になる場合があり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

ハンドルについて



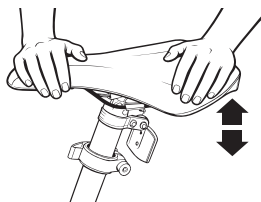
- スタンドを走行状態にしたとき、ハンドルがスムーズに操作できることを確認してから乗る

(ハンドルの旋回が抑制されて、転倒によるけがのおそれ)
⇒スタンドを跳ね上げてハンドルの旋回が抑制される場合は、ご使用を中止し、販売店にご相談ください。

サドルについて



- 乗るまえには、必ずがたつきやずれが無いが点検をする



(シートポストや舟線が折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれ)
⇒サドルのがたつきやずれがある場合は、ご使用を中止し、販売店にご相談ください。

チェーンについて



- たるんだまま走行しない

(チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり、転倒や衝突によるけがの原因)
⇒ご使用を中止し、販売店で調整してください。

⚠ 警告

荷物を積むときは



- 積載条件(積載質量、積載物の大きさ)から外れる荷物を積まない
(リアキャリアやフレームが破損したり、ふらついて転倒によるけがのおそれ)



- リアキャリアを変造および改造はしない
(部品が破損したり、外れたりし、転倒によるけがのおそれ)

- 荷物を載せたまま自転車を押し歩きするとき、ハンドルを大きく切ったり、傾けたりしない

(ハンドルを大きく切った際に、自転車が左右に傾きやすくなり、荷物の重みで転倒によるけがのおそれ)
⇒傾斜面や路面の凹凸がある所では、特に起こりやすくなりますのでご注意ください。



- リアキャリアやバスケットの荷物でリフレクターやライトの光を遮らないようにする
(事故によるけがのおそれ)

- 荷物は確実に固定する

(バランスを崩したり、ひもやベルトを後車輪に巻き込んで転倒によるけがのおそれ)

- 荷物を積載するときは、安全の確保できる場所で、十分練習してから乗車する

(自転車のハンドル操作や走行安定性を損ない、ブレーキをかけたときに制動距離が長くなり、バランスを崩したり、ブレーキの利が悪くなることにより、転倒によるけがのおそれ)

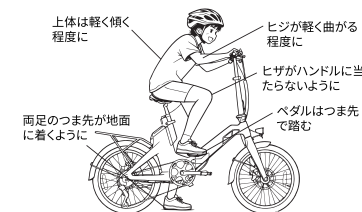
自転車に乗るまえに



- 乗るまえの点検は必ず行う*



- 自転車を身体に合わせる*



⇒正しい姿勢で乗車できるよう、上図のように販売店で調整してもらってください。
⇒操作して次のことを確認してください。
①円滑なペダリングができる。
②ブレーキや変速機が確実に操作できる。
③ハンドル操作が容易にできる。

⚠ 警告

自転車に乗るまえに



■ 自転車に慣れるまでは、車が通らない平坦な場所(公園や広場など)で十分練習する*

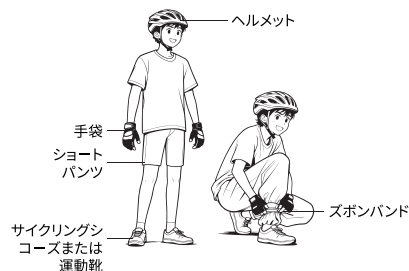


⇒よく練習してから一般道路でお乗りください。

⇒電動アシスト自転車の場合、慣れるまでは[低速モード]で走行してください。

■ 安全な服装を着用する(車輪に巻き込まれやすい服装はしない)*

⇒ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギアへの引っ掛かりなどを防止するために、チェーンやギアがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。



※(衝突や転倒によるけがのおそれ)



■ 安全装置(リフレクター、車輪脱落防止金具、テールライト)は、取り外さない

(外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれ)

■ 走行中、手元スイッチの操作をしない(電源の入切、アシストモードの切り替え、ライトの操作など)

(上り坂や発進時、誤操作などでアシストが切れたときに、バランスを崩したり、片手運転になり転倒によるけがのおそれ)

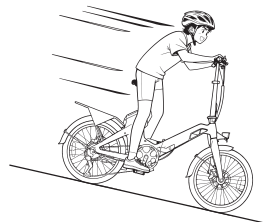
⇒必ず停止して、操作をしてください。

■ 停車中は、ブレーキ(前・後)をかけた状態にし、ペダルに足を乗せない



(不用意なアシスト力が働き転倒や接触事故によるけがのおそれ)

■ スピードをだしすぎない



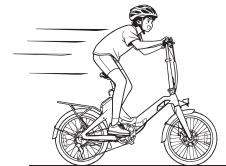
衝突や転倒、接触事故によるけがのおそれ

⚠ 警告

安全に乗るために



■ 発進時または低速走行時は、ペダルを強く踏み込まない

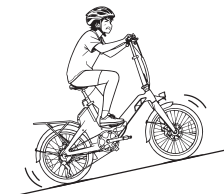


(思わぬ急発進やアシストの働きにより転倒や衝突事故によるけがのおそれ)

⇒強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。

■ 発進時や、きつい上り坂走行時は重い変速位置を選ばない*

■ バッテリー残量が少ない状態(残量表示が点滅状態)のときには、上り坂で乗車しない*



※(アシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

■ スタンドを下げた状態で、乗らない(発進しない)

(スタンドが変形・破損して、走行中に引っかかりバランスを崩して転倒し、けがをするおそれ)
⇒スタンドを上げてから乗車してください。

■ キーにはキーホルダーやスペアキーを付けたまま乗車しない

(キーホルダーやスペアキーなどが後車輪に巻き込まれ、転倒によるけがのおそれ)

■ 後輪サークル錠は走行中に作動させない

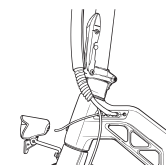
(車輪がロックされ転倒によるけがのおそれ)



■ パンクしたままやタイヤの空気圧を確認せずに走行しない

(ハンドルが取られ、転倒や衝突によるけがのおそれ)

■ 走行中にスタンドを下けたり、スタビタゲールを引っ張らない



(ハンドルが固定され 転倒によるけがのおそれ)

■ けんけん乗り(けり乗り)しない



転倒や接触事故によるけがのおそれ

⇒ペダルを強く踏めば、モーターがそれに応じて強いアシスト力を出すため、乗り込む際に自転車飛び出し、危険です。必ずサドルにまたがって、発進してください。
けんけん乗り(けり乗り)とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

■ 一度に2段変速しない

(一気に変速すると、ショックが大きく、転倒によるけがのおそれ)

⇒1段ずつ変速してください。

■ ペダルを踏み込みながら変速しない

(変速操作に対し、実際のギアの切り替えが遅れ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

⚠ 警告

交通事故を防ぐために

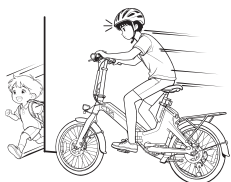
車の横を走るときは!

- ⚠ ■ 開くドアや人の飛び出しに注意する*



学校や公園が近くにあるときは!

- 子供の飛び出しに注意する*



交差点を通るときは!

- 左折車に巻き込まれないように注意する*



※(事故による重大なけがのおそれ)

自動車や子供に注意!安全を確認し、乗りましょう!

転倒事故を防ぐために



こんな使いかた

- 走行以外に使わない(踏み台代わりなど)



(転倒によるけがのおそれ)

- スポークの間に固形物(ボールなど)を入れて走らない



(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

こんな乗りかた

- 傘やステッキ、釣りざおなどを車体に差し込んだり、釣り下けたりして乗らない*



- 路上の異物を不用意に踏まない*

- 車輪の近くに取り付けてある部品の固定が確実であるかを確認せずに乗らない*

- ブレーキをかけたときにブレーキシューがタイヤに接触していたり、リムからはみ出していないかを確認せずに乗らない*

※(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックによる転倒や、ほかの人や物にぶつかって事故によるけがのおそれ、特に前輪への巻き込みは前転により大きな被害になるおそれ)

⚠ 警告

転倒事故を防ぐために



- 手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないだりしない



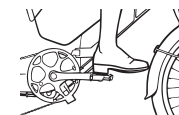
(荷物やひもが、車輪に巻き込まれ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

- 巻き込みやすいものを車輪やギアに近接させて乗らない(長いスカートやマフラー傘やペットのひもなど)



(車輪やギアに巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

- 土踏まずやかかとでペダルを踏まない



(カーブでつま先が前車輪に当たり転倒によるけがのおそれ)

- 滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない

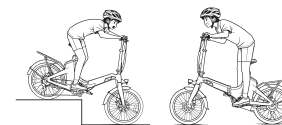


(ペダルから足が外れ、転倒によるけがのおそれ)



- アクロバティックな乗りかたはしない*

- 凹凸の激しい所を走らない(段差の乗り降りや溝など)*



※(転倒や落車によるけがのおそれ)
⇒段差を超える場合は、降りて歩いてください。やむを得ず、低い段差を乗り越える場合は十分に注意してください。滑ったり、バランスを崩したりするおそれがあります。

- カーブで曲がる側のペダルを下げない
(ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれ)



(バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

- 雨・風・雪のひどいときは乗らない



(バランスを崩したり、スリップすることで転倒によるけがのおそれ)
⇒雨の降り始めでも、路面の一部がぬれ、滑りやすくなります。乾いた路面からぬれた路面に入るときはスリップによる転倒に注意してください。

⚠ 警告

転倒事故を防ぐために



■ 滑りやすい所では乗らない(積雪や凍結した道・ぬれた路面・石板(大理石など)・マンホールや側溝のフタ・路面上の表示(白線など)・タイル張りや点字ブロック・路肩の砂や砂利・ぬかるみなど)



(スリップして、転倒によるけがのおそれ)
⇒降りて、押して歩いてください

消耗品を交換するときは



■ 純正部品を使用する

(純正部品以外の使用で故障や事故発生によるけがのおそれ)
交換はお買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)に依頼してください。

保管するときは



■ 不安定な場所に自転車を保管しない

(自転車動き出したり、風などで自転車が転倒したりして事故につながるおそれ)

包装の袋などは



■ 取扱説明書が入っているポリ袋や、サドル・バスケットのポリ袋は幼児の手の届く所に置かない

(頭からかぶるなどしたときに、口や鼻をふさぎ窒息するおそれ)

運搬するときは



■ 自転車を運搬するときは電源をOFFにする

(自動車への積載時など運搬の際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれ)

定期点検は



■ 定期点検と整備は、異音が生じたり、異常を感じたとき、それ以外でも必ず6か月1回(初回を除き)実施する

(異常や故障の発見が早く事故発生によるけがのおそれ)

⇒必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)により点検・整備をお受けください。

初回(2か月以内)の点検と整備

お買い上げ2か月ぐらいのご使用で、各部にねじの緩みが出てくる場合があります。

2回目以降(6か月ごと)の点検と整備

安全にご愛用いただくため、お買い求めの販売店または修理代行店に依頼し、必ず継続してお受けください。

■ ブレーキケーブル・変速ケーブルは、外観上異常が無くても2年に1回は、交換する*

■ ブレーキシューは、溝の残りが、1mmになるまでに交換する*

■ ブレーキシューは、リムにあった純正ブレーキシューに交換する*

※(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)

⇒交換は販売店に依頼してください。

■ タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなるまでに交換する

摩耗して溝が無い
深いキズ



(ブレーキが利かなくなったり、スリップのため転倒によるけがのおそれ)

⇒タイヤは仕様のタイヤ寸法にあったものと交換してください。

⇒交換は販売店に依頼してください。

■ スタピタケーブルは、外観や作動に異常が無くても2年に1回は点検・調整し、必要に応じて交換する

(ハンドルロックがかかり、バランスを崩して転倒によるけがのおそれ)

⇒点検・調整や交換はお買い求めの販売店または修理代行店に依頼してください。

⚠ 警告

自転車の交通安全ルールについて



■ 次のような運転は絶対にしない*

- ・ ヘッドホンを使用しながらの運転
- ・ 飲酒運転
- ・ 牽差し運転
- ・ 2人乗り
- ・ 携帯電話を操作しながらの運転
- ・ 信号無視
- ・ 並進

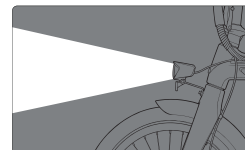


⇒小学校就学の始期に達するまでの者をチャイルドシートに1人乗せる場合などを除き、2人乗りは禁止です(幼児2人同乗用自転車を除く)。

⇒「並進可」標識のある場所以外は並進は禁止です。



■ 夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行する*



⇒夜の無灯火での運転は法令違反です。暗い所ではライトをつけて通行しましょう

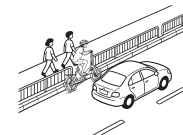
⇒夜間および視界の悪いときの無灯火走行は大きな事故につながります。前照灯がつかない場合やリフレクターが破損したり汚れているときは、押して歩いてください。



■ 乗車するときは必ず自転車用ヘルメットを着用する*

⇒改正道路交通法の施行により、2023年4月1日から自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されました

■ 自転車は、車道を通行する*



⇒歩道と車道の区別のある所は、自転車は車道の左端に寄って通行しましょう(路側帯がある場合でも、自転車の通行は道路の左側部分に設けられた路側帯に限定されます)。

⇒次の様な場合は、歩道通行ができます。

自転車歩道通行可の標識などで指定されている場合

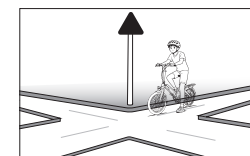
運転者が児童、幼児、70歳以上の場合

車道や交通の状況から見てやむを得ない場合

⇒歩道は歩行者優先、車道寄りを徐行してください。



■ 交差点では一時停止と安全確認を行う*



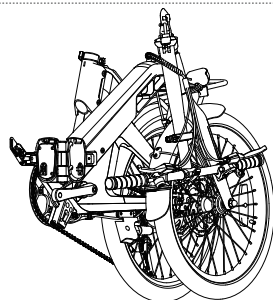
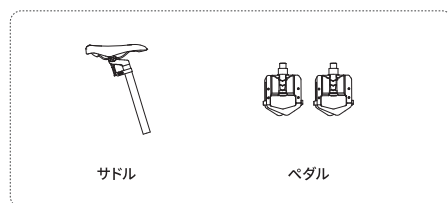
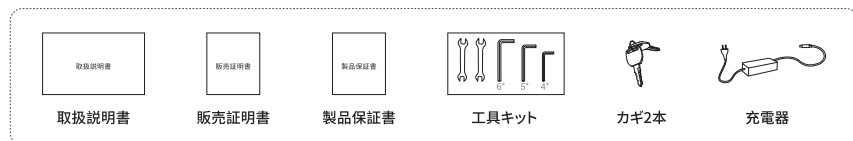
⇒一時停止の標識を守り、広い道に出るときは、徐行と安全確認をしてください。

⇒信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。

※(交通ルールを守らないと衝突や転倒によるけがのおそれ)

使用説明書

付属品



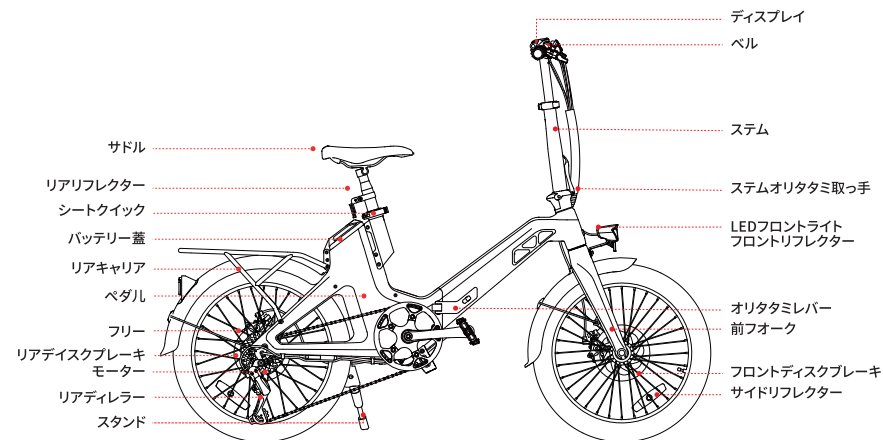
LIGHT-P4 オリタタミ自転車

*梱包箱の中の物品がすべて揃っているか、紛失や破損がないかをよくご確認ください。

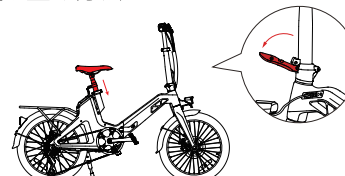
基本パラメータ

項目	LIGHT-P4
製品サイズ	1580*570*1020-1140mm (ステム伸縮) / 折畳: 830*500*680mm
車両重量	23 kg
最大積載量	90 kg
駆動方式	トルクセンサー
ブレーキ (前/後)	160MM 前後ディスクブレーキ
タイヤ	20*1.95 Inch
アシスト	24km/hまでアシスト
1充電あたりの走行距離	最大約70km
バッテリー	36V 7.65Ah
モーター	250W
ディスプレイ	LCD
前照灯	LEDフロントライト
充電電流	42V 2A
充電時間	3-5h

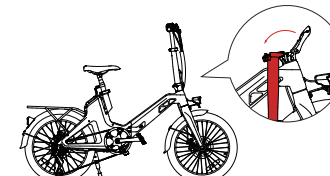
部品説明



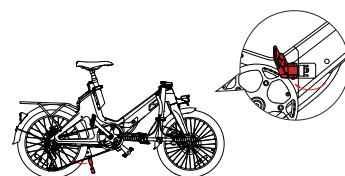
折り畳み方法



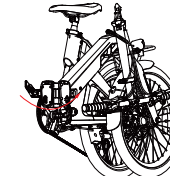
1. 電動アシストのスイッチを切った状態で、ハンドルバーとサドルを一番下まで下げます。



2. ハンドルステムのオリタタミレバーを開いて、ハンドルステムをオリタタミします。



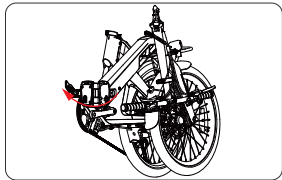
3. ペダルを折り置き、スタンドを起こして、フレームのオリタタミレバーを開きます。



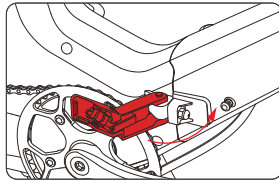
4. 前部フレームを図示の方向に折り曲げ、回転させます。前後ホイール部分のマグネットが確実に吸着し、がたつかないことを確認してください。

警告: 前車体を折りたたむ前に、必ずバッテリーのスイッチ穴に挿入されているキーを抜いてください。折りたたむ際にキーが折れてしまう恐れがあります。

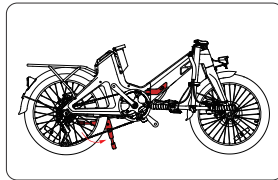
組立方法



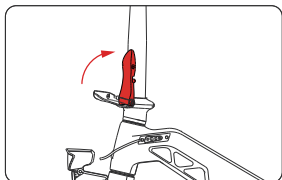
1. オリタミ状態の自転車を箱から取り出して、梱包材を取り外してください。



2. 折りたたみ車体を展開し、ロックラッチを車体方向へ回転させ、しっかりとカチッとするまで固定してください。

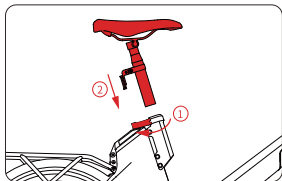


3. ロック機構が完全に固定されていることを確認し、スタンドを下ろしてください。

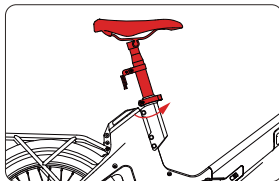


4. ボールを垂直に立て、折りたたみレバーを内側に回転させて確実にロックしてください。

サドルの取り付け方法

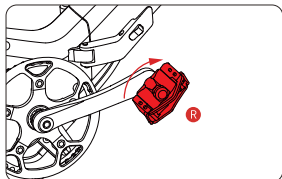


1. サドル取付け: クランプ①を外側に回して開き、サドル②をシートポストに挿入してください。

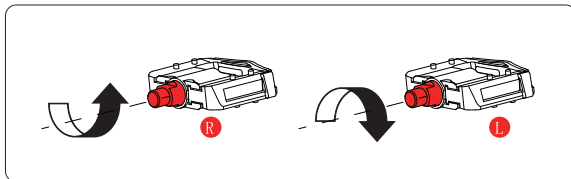


2. 折りたたみクランプを内側に締め付け、サドルにガタつきがないことを確認してください。

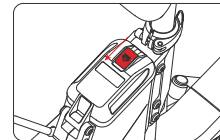
ペダルの取り付け方法



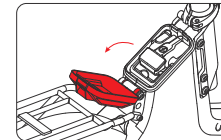
ペダル取付け: 左右の表示を確認し、右ペダルは右回り(時計回り)、左ペダルは左回り(反時計回り)で締め付けてください。



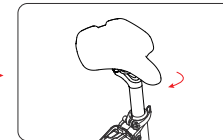
バッテリーの取り外し方法



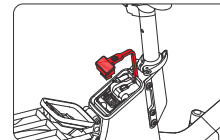
1. 図の赤部の矢印の方向に引っ張り上げます。



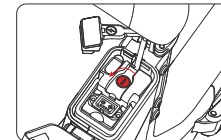
2. バッテリーカバーを外側に開けてください。



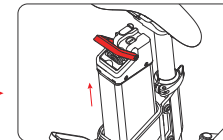
3. サドルの位置を調整します。左右90度くらいです。



4. 電源を切って、バッテリープラグを取り外します。



5. 鍵をバッテリーロックに差し込み、右に回してください。



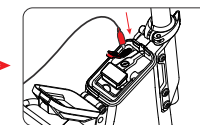
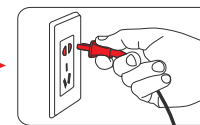
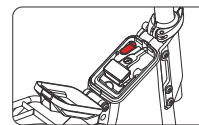
6. バッテリーを取り外します。

バッテリーの使用について

輸送や保管の過程で、バッテリーの自己放電などの原因により、初めて使用する際に電量が低かったり、電気がなかったりすることがあります。これは正常な現象です。以下の充電手順に従って充電してください。外付け充電方式と車体一体型充電方式の2つのモードから選択することができますが、未成年者が充電装置を操作しないようにしてください。

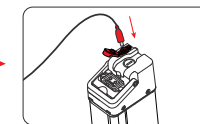
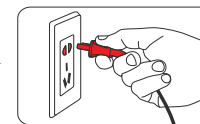
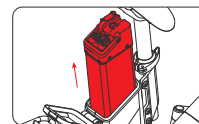
① 車体一体型充電

バッテリーBOXのカバーを開けて、充電ポートのゴムキャップを外してください。充電器を電源に接続し、それから充電器の出力端を車体の充電ポートに接続します。充電完了後、ゴムキャップを確実に閉めてください。



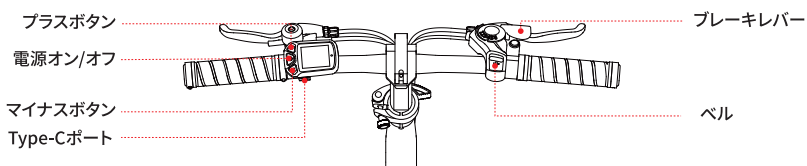
② 外付け充電

バッテリーを取り外し、充電ポートのゴムキャップを開け、充電器を電源に接続してから、充電器の出力端を車体の充電ポートに接続します。充電完了後、ゴムキャップをしっかりと閉めてください。



* 充電器の赤色点灯は充電中の表示で、充電が完了したら緑色の点灯になります。充電完了後は速やかに電源を切断してください。
車体温度が40℃を超える場合、正常に充電できません。車体が40℃以下に冷却してから充電してください。

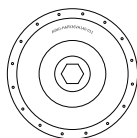
ハンドルコントロールスイッチ配置図



	短押し	長押し(電源オン後)	同時押し
	ODO総走行距離の表示切替	電源 オン/オフ	/
	アシストレベルアップ	ライト オン/オフ	スリップ設定 ホイールサイズ設定 速度リミット設定 バックライト設定 単位設定 (km/mile等) 走行距離リセット
	アシストレベルダウン		

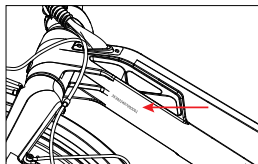
モーターコード

モーターの端部に刻印されています(図参照)。



フレーム番号

図の位置に表示されています。



お手入れについて

■ 日常のお手入れ

- 乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
- がんこな汚れには、台所用洗剤(中性)を薄めてご使用ください。

■ 次のような場所では、

- 〈湿気が多い場所・海岸沿い・工場地域・エアコンの室外機のそば・自動車の排気ガスのかかる所・鉄道の線路際など〉
- さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。

■ ステンレス部品

- ステンレスはさびにくい金属ですが、使用条件や環境によってさびることがあります。下記の点にご注意の上ご使用ください。
- ステンレスに付着した鉄粉などがさびることによって「もらいさび」が発生しますので、お手入れを頻繁に行ってください(例:鉄道や鉄工所の近辺での保管車、後車輪周りのステンレス部品など)。
- ステンレスは塩素にも弱く、さびることがあります。塩分や塩素系の洗浄剤が付着したときは、乾いたあとでもさびが発生しますので、水を含んだ布などでしっかりふき取ってください。

お願い

- 本自転車は生活防水性能を備えていますが、駆動ユニットやバッテリー、手元スイッチ、バッテリーライトなどの電装部品や回転部(前後ハブ、ヘッド部など)にはホース先端をすばめて圧力のある水を直接かけての洗車や、高圧洗浄機やスチーム洗車機を使った洗車はしないでください。水が入った場合、故障の原因となるおそれがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水につかった場合は、直ちに使用を中止して販売店にご相談ください。
- 融雪剤や農薬を散布した道路を走行後、または台風が通過したあとなどは薬剤や塩分の影響により、自転車のステンレス部品にもさびが生じることがあります。このような場合、水道水で薬剤や塩分を流していただき、乾いた布でふき取るようにしてください。
- シンナー・ベンジンなどの有機溶剤、ガソリンなどの石油類薬品、酸性・アルカリ性の洗剤などは使用しないでください(塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されたりします)。
- サドルには、ワックスをかけないでください(座ったとき衣服が汚れたり、滑ったりします)。

ディスプレイ



エラーコード意味一覧表

エラーコード	故障状態	故障コード(10進数)	故障状態
101	ブレーキ電源リセット未完了	34	モーターロック
102	スロットル電源リセット未完了	35	モーター相線未接続
103	スロットルアース線脱落	36	ホールセンサー断線
105	速度センサー信号異常	52	コントローラソフトウェア未対応 (要アップデート)
24	コントローラー過電流		
25	コントローラー低電圧		
26	コントローラー過電圧		

点検

点検箇所	点検内容
①リアリフレクター	割れや、汚れは無い？ 反射面の角度は適切か？
②サイドリフレクター	割れやがたつきは無い？
③泥よけ<前・後>	がたつきや外れは無い？ タイヤに当たっていない？ 曲がりは無い？
④リアキャリア	固定は確実か？
⑤サドル	両足のつま先が地面に着く？ サドルの固定は確実か？ サドルがフレームと平行になっている？ サドルの上面と地面が平行になっている？
⑥ブレーキレバー<左・右> ⑦ブレーキ<前・後>	ブレーキの利きは良い？ ブレーキのケーブルのさびやほつれは無い？ 左右ブレーキレバーの取付部を押して動いたりしない？ 開き・引きしろは適切か？ 操作したときに動作は円滑か？ ブレーキの引きずり※は無い？ ※ブレーキの引きずりとは、ブレーキをかけていないのに、ブレーキがかかってしまう状態のことです。
⑦シフトグリップ	スムーズに変速できる？
⑧ハンドル部	ハンドルの固定は確実か？ ハンドルの回転はスムーズか？ ハンドルが前輪に対して直角か？ ハンドルが左右方向に60度以上回転するか？
⑨グリップ<左・右>	ひび割れは無い？ 抜けは無い？ 回らない？
⑩手元スイッチ	ケースや操作スイッチ部にひび割れなどが無い？ スタンドを上げて、ハンドルを回転させたとき、手元スイッチケーブルが突っ張っていない？ ケーブルに断線や損傷は無い？ ケーブルクリップは外れていない？ ライトボタンを押して、ライトは点灯するか？
⑪ベル	よく鳴るか？固定は確実か？正しく取り付けられている？
⑫ケーブル類（ブレーキ・変速機など）	たるみ・さび・固着・断線や損傷が無い？
⑬フロントリフレクター一体型バッテリーライト	点灯するか？取付角度は適切？ 割れやがたつき、汚れは無い？ケーブルにたるみ・断線・損傷は無い？ 反射面が地面および前者輪に対して直角になっている？

点検箇所	点検内容
⑭車輪部<前・後>	タイヤに摩耗・切傷は無い？ 車輪の固定は確実？ タイヤに異物は付いていない？ スポークに曲がり・切れ・緩みは無い？ 空気圧は適正？ リムに振れ、変形は無い？ リムが摩耗していない？
⑮チェーン	空回りしない？小石などが挟まってない？ 歯飛びや異常な音（バリバリ音など）は無い？ 油切れはしていない？ たるみが大きくない？ さびていない？ チェーンケースに接触していない？
⑯バッテリー	外観を見て ケースにひび割れや変形、ねじの緩みなどは無い？ 端子部が汚れていない？ 車体に装着してみて しっかりと車体にはまっている？
⑰駆動ユニット	ペダルに力を加えてみて 駆動ユニットがフレームに対してがたついていない？ テンションプーリーは円滑に動作するか？
⑱ペダル・クランク	がたつきは無い？ ひび割れや曲がりは無い？
⑲ペダルリフレクター	割れやがたつき、汚れは無い？
⑳フレーム	ひび割れや変形は無い？ ケーブル類が巻き付いていない？
㉑スピードセンサー	センサーの固定は確実？ ケーブルに断線や損傷は無い？ ケーブルはしっかり固定されている？ 車輪を回転させたときに、異常は無い？
㉒フロントフォーク	ひびわれや変形は無い？